

平成21年6月19日

各 位

会社名 株式会社サンオータス
代表取締役社長 北野 俊
(JASDAQ コード番号: 7623)

問い合わせ先
常務取締役管理本部長 古川 晴 男
TEL(045)473-1211 (代表)

特別損失の発生及び平成21年4月期通期業績予想との差異に関するお知らせ

当社は、特別損失を計上することとなりましたので、その内容をお知らせするとともに、平成20年12月15日付当社「平成21年4月期第2四半期累計期間の業績予想との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」にて公表いたしました、平成21年4月期(平成20年5月1日～平成21年4月30日)通期業績予想を修正いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 特別損失の発生及びその内容

- (1) 連結においては、収益性の低下に伴い、子会社に係るのれんについて222百万円の減損損失を認識するとともに、ディーラー店舗の閉鎖を決定したため固定資産の帳簿価額を回収可能額まで減額し、減損損失として15百万円を、それぞれ特別損失に計上いたしました。
- (2) 個別においても、収益性の低下に伴い回収可能性を検討した結果、子会社について、関係会社株式評価減及び貸付金等に対する貸倒引当金繰入に係る特別損失を289百万円計上いたしました。

2. 平成21年4月期通期連結業績予想の修正等

(1) 通期(平成20年5月1日～平成21年4月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回公表予想(A)	39,000百万円	70百万円	130百万円	55百万円
今回修正(B)	34,168百万円	△279百万円	△299百万円	△590百万円
差異(B)－(A)	△4,831百万円	△349百万円	△429百万円	△645百万円
差異率	△12.4%	—	—	—
(ご参考) 前期実績(平成20年4月期)	37,476百万円	477百万円	509百万円	286百万円

(2) 修正の理由

売上高については、石油製品販売部門では、年度の前半は販売数量の確保と販売価格の上昇により予想を上回って推移していましたが、後半に入ると、景気の急速な後退に伴う需要の減少と、石油製品価格の急落による影響を受けて、販売数量を確保できず通期予想を下回りました。

自動車販売部門においても、国内の新車販売台数が3年連続して前年割れとなった状況が示すとおり、自動車需要の後退に加え低燃費車志向などの影響もを受けて、BMW車を中心とする3ブランドの輸入車販売も新車・中古車の販売が共に苦戦を強いられました。

BMW車のディーラー店舗の増加(新設店舗1か店及び営業の譲受による1か店)も期央であった

ため、売上への寄与は限定的であったこと及び自動車販売における最大の需要期である第4四半期において、さらなる景気悪化の影響を受けて予想を越えた販売低迷に直面し、通期予想を下回りました。

不動産関連部門は、引き続き堅調に推移し、通期予想を上回りましたが、グループ全体への影響は軽微でありました。

その結果、当期の当社グループの連結売上高は34,168百万円（前年度比3,307百万円減少）となり、公表予想を4,821百万円下回りました。

営業利益については、石油製品販売部門ではS S（サービスステーション）間の価格競争は依然として激しく、仕入価格の変動が激しかったことも加わって、マージンの低下を強いられた結果、利益面では終始厳しい状況下に置かれました。

自動車販売部門では、売上の未達成及び熾烈な価格競争によるマージンの低下と、長期在庫車両の処分及び新会計基準の適用による販売車両を中心とした棚卸資産の評価減を実施したことに加え、店舗の新設及び譲受などにもなう諸経費等の負担増加も重なって、通期予想を大幅に下回る結果となりました。

不動産関連部門は、売上増により営業利益も増加しましたが、グループ全体への寄与は限定的でした。

以上により、通期の営業利益は、主力部門の売上減少と利益率の低下、店舗ネット拡充のための初期投資負担、販売経費の増加及び前年度に引き続き「のれん」の償却負担も重なった結果279百万円の損失計上を余儀なくされました。

経常利益は、借入金支払利息の増加などにより営業外支出が営業外収入を20百万円上回ったことにもない、299百万円の損失計上となりました。

当期純利益は、不採算店舗の閉鎖損失、会員権及びのれんの評価損失等にもなう特別損失を267百万円計上し、次期以降の回収可能性を保守的に見積り繰延税金資産を約100百万円取崩したため当期純損失として590百万円を計上し、通期予想に対し大幅な差異が生じました。

3. 平成21年4月期通期個別業績予想の修正等

(1) 通期(平成20年5月1日～平成21年4月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回公表予想(A)	20,500百万円	60百万円	180百万円	60百万円
今回修正(B)	18,606百万円	△253百万円	△101百万円	△472百万円
差異(B)－(A)	△1,893百万円	△313百万円	△281百万円	△532百万円
差異率	△9.2%	－	－	－

(2) 修正の理由

売上高については、石油製品販売部門ではS Sの売上の大半を占めるガソリン価格の乱高下と石油製品需要の後退による影響から、特に年度後半において売上の減少を強いられ、通期予想を下回りました。

自動車販売部門でも、フォード車の販売が景気悪化や大型車需要の減少により、新車・中古車販売は前年度に引続き低調に推移した結果、通期予想を大幅に下回りました。

レンタカー部門では、店舗網及び保有車両の拡充に注力した結果、ほぼ予想通りとなり、不動産関連部門も堅調に推移しましたが、全体への影響は軽微でありました。

その結果、売上高は18,606百万円となり、通期予想を1,893百万円下回りました。

利益面においては、ガソリンの仕入れ価格が変動する一方S S間の価格競争は熾烈で仕入れ価格の変動分をタイムリーに販売価格に反映させることが困難な状況にあったこと等により、利益率の低下を余儀なくされたことに加えて、フォード車の販売も不振であったことと長期保有在庫車両の処分を実施したことなどにより、営業利益は通期予想を大幅に下回り、営業損失として253百万円を計上することとなり、差異が生じました。

経常利益も、営業外収入が子会社からの配当金などもあり営業外支出を151百万円上回り、営業損失の一部を補いましたが、経常損失として101百万円を計上し通期予想との差異が生じました。

さらに、不採算ディーラー店舗の閉鎖、会員権並びに子会社の株式の評価損及び貸付金等に対する貸倒引当金繰入等に係る特別損失を339百万円計上するとともに繰延税金資産を約100百万円取崩したことによって、当期純利益も通期予想を大幅に下回り、472百万円の当期純損失となりました。

以上